いなとみ修二 政策集

「ともにつくる、福岡」

福岡の可能性を、すべての人の豊かさへ。

4 つの重点戦略 ／ 14 の政策分野

政策集原稿・2026 年 10 月 23 日 改訂版

■福岡は、もっとできる。

福岡は、この十数年で大きく成長してきました。人口が増え、まちの姿が変わり、国内外での知名度や都市としての存在感も高まりました。これまでの市政が、福岡の知名度や都市ブランドを高めてきたことは評価しています。

しかし、ここで改めて考えたいことがあります。福岡という都市は元気になった。では、福岡で暮らす市民と、福岡で頑張る企業は、本当に元気になったでしょうか。

物価や住宅費が上がり、暮らしに余裕を感じられない人がいます。子どもを育てたい、もう一人子どもが欲しいと思っても、経済的な不安からためらう家庭があります。人手不足やコストの上昇に苦しむ企業があります。都市の成長を市民と企業の豊かさにつなげる取り組みは、まだ道半ばです。

私は、これからの福岡の成長のあり方を変えたいと考えています。都市が成長すれば、やがて市民も豊かになるという発想を変え、**市民一人ひとりの暮らしが豊かになり、その積み重ねが都市の新たな成長を生み出す福岡へ**。 安心して働き、子どもを育て、将来に希望を持って暮らせること。地場企業が利益を増やし、賃金や人材育成、次の投資につなげられること。市民と企業の豊かさこそが、福岡の持続的な成長を支える原動力です。

私は国会議員として、日本全体の課題と可能性を見つめてきました。その経験から福岡を見つめ直すと、九州・アジアの結節点という地理的な強み、空港、港、大学、企業、人材の集積など、このまちにはまだ活かしきれていない大きな力があります。

これらの可能性を最大限に引き出すため、私は「副首都・福岡」の実現を目指します。副首都は単なる都市の肩書きではありません。国の機能や企業、投資、人材を呼び込み、新しい産業と良質な雇用を生み出す。地場企業の成長と市民所得の向上につなげ、その成果を教育、住宅、子育て、交通、福祉など市民の暮らしへ届けます。

福岡の人口も、将来にわたって増え続けるわけではありません。これからの約 15 年間は、都市の成長を一人ひとりの豊かさにつなげるとともに、**「一人ひとりの豊かさが次の成長を生み出す好循環」**を築き、人口減少社会にも対応できる都市へ進化する大切な期間です。まちづくりだけでなく、人づくりを政策の中心に据えます。

目指すのは、これまでの市政の「継承か刷新か」という二者択一ではありません。築かれた強みを活かし、まだ十分に発揮されていない可能性を引き出すこと。そして次の世代に、もっと豊かな福岡を引き継ぐことです。

市民と行政がともに考え、ともに行動し、ともに未来をつくる。福岡は、もっとできる。いなとみ修二とあなたで、新しい福岡をともにつくりましょう。

■福岡から、政治を変える。

今、政治に対する信頼が大きく揺らいでいます。福岡県議会をめぐる一連の問題は、多くの県民に失望と不信を広げました。その根本にあるのは、「政治と行政が本当に県民を向いて仕事をしているのか？」、という問いです。

そして、この問題は決して県政だけのものではありません。この不信感は、政治・行政すべてに向けられています。「福岡市と福岡市議会も、同じような関係になっているのではないか」。私は、市民の皆さんから寄せられるこうした声を、重く受け止めています。市民の信頼を失えば、どれほど立派な政策を掲げても、それを実現する力を失ってしまう。だからこそ、今、政治のあり方そのものを変えなければなりません。

私が実現したいのは、「市民を向いた政治」です。市民の声に耳を傾け、その声を政策に生かし、結果を市民に説明する。その当たり前のことを、市政の基本に据えます。市長自らが地域に足を運び、市民と直接対話する。幅広い市民が政策づくりに参加し、地域の声が市政に届く。そうした新しい仕組みを整え、「市民が政治の主役であることを実感できる市政」をつくります。

また、市長には、市民の暮らしと利益を守るため、市の外に向かって交渉する役割もあります。「副首都・福岡」の実現には、国や県との協議が欠かせません。交通政策や道路整備などでも、周辺自治体や企業との連携が必要です。時には厳しい交渉に臨まなければならないこともあるでしょう。そのとき、私を支える最大の力は、市民の皆さんからの信頼です。

私は、「市長は市民を代表した外交官でもあるべき」だと考えています。市民の声を背負い、市民の利益を守るために、国や県、他の自治体と堂々と向き合う。その土台となるのは、市民との対話を積み重ね、信頼を築くことにほかなりません。

政治は、政治家や行政のためにあるのではありません。市民のためにあります。市民の声が届く。市民の声で政策が動く。その成果を市民が確かめられる。そんな政治を、福岡市から始めます。

■まず、今の暮らしを支える｜緊急生活支援プラン

物価高から、市民の暮らしと事業者の経営を守る。食料品や光熱費などの値上がりが家計と経営を圧迫しています。中長期の成長戦略と同時に、今困っている人を支える迅速な対策を進めます。

① 下水道使用料の減免

市民や事業者の負担を軽減するため、下水道使用料の一定期間の減免を検討します。対象範囲と必要な財源を速やかに整理します。

② 物価高に苦しむ事業者への支援

電気代や原材料費の上昇などに苦しむ中小企業・小規模事業者に対し、経営状況に応じた負担軽減や経営改善支援を検討します。

③ 迅速な予算措置

国の交付金や市の財政状況を精査し、必要な予算措置を速やかに検討します。

■いなとみ修二が「すぐやること」

物価高から暮らしと経営を守る

下水道使用料の減免や事業者支援など、緊急生活支援プランを実行します。

■いなとみ修二が考える「４つのビジョン」

１．「副首都・福岡」を実現する

国の機能や企業、投資、人材を呼び込み、良質な雇用と市民所得の向上を目指します。

２．人への投資で、一人ひとりの可能性を開く

子どもの学びを保障し、若者の挑戦や働く人の学び直しを支えます。

３．誰もが安心して住み続けられる福岡をつくる

住宅、子育て、一人暮らし、介護など、それぞれの暮らしに合った支援を充実させます。

４．市民とともに、信頼できる市政をつくる

市民の声を政策に反映し、税金の使い道と成果が分かる市政を実現します。

重点戦略Ⅰ　ともにつくる、もっと豊かな福岡

― 都市も、企業も、人も。その可能性を最大限に。―

九州・アジアの拠点としての都市の可能性。新しい価値を生み出す企業の可能性。そして一人ひとりが持つ可能性。「副首都・福岡」を成長のエンジンとし、地場企業の競争力を高め、教育や人材育成への投資を拡充します。

政策１　「副首都・福岡」を実現する

九州・アジアの拠点から、日本を支えるもう一つの中心へ。

東京に政治・経済の機能が集中する日本では、大規模災害への備えと地方の成長力の強化が重要です。福岡の地理的な強みや都市機能を活かし、国の機関や企業の本社機能を呼び込む「副首都・福岡」を目指します。

① 実現に向けた体制をつくる

市役所内に専門の推進体制を整え、国、福岡県、北九州市、経済界、大学などとの連携を強化します。必要な都市基盤の整備や企業誘致を一体的に進めます。

② 国の機関や企業の本社機能を福岡へ

国の行政機関や政府関係機関、企業の本社・第二本社、研究開発拠点などの誘致を進め、新しい仕事や投資を呼び込みます。専門性の高い仕事や新たな投資を呼び込み、福岡の経済基盤を強化します。

③ 九州・アジアの拠点機能を高める

福岡空港、博多港、博多駅などを活かし、九州各都市やアジアとの人・モノ・情報の交流を拡大します。空港や港の機能強化、交通アクセスの改善を関係機関と連携して進めます。

④ 九州全体の成長を支える広域連携を進める

福岡都市圏や九州各地の自治体と連携し、産業、観光、交通などの課題に取り組みます。九州全体が互いの強みを活かして成長する経済圏を目指します。

政策２　地場企業を強くし、高付加価値産業を育てる

企業の成長を、働く人の所得向上へ。

外から企業を呼び込むだけでなく、福岡で事業を営む中小企業や新しい企業が成長できる環境を整えます。専門的な技術や知識によって高い価値を生み出す産業を育て、企業の利益と働く人の所得向上を目指します。

① 地場企業の経営力を高める

デジタル技術やAIによる業務効率化、販路拡大、海外展開、コスト削減などを支援して、売上と利益の向上を賃金引き上げや雇用につなげます。

② 地場企業の人材確保と事業承継を支える

中小企業の採用活動や奨学金返還支援、後継者育成、円滑な事業承継を支援します。

③ 地場企業の販路と受注機会を広げる

国内外への販売先開拓や企業間連携を支援します。市の発注においても競争性に配慮しながら地場企業の受注機会拡大を図ります。

④ AI・半導体などの成長産業を育てる

AI（人工知能）、半導体、金融、医療などへの投資や企業間の連携を促進し、福岡の新しい産業を育てます。

⑤ 新しい企業の創業から事業拡大までを支援

起業支援に加え、創業した企業が事業を大きく成長させる「スケールアップ」を後押しします。資金調達、販路開拓、人材確保、海外展開を切れ目なく支援します。

⑥ 企業・大学・研究機関が連携する産業拠点をつくる

金融・資産運用特区などを活かし、企業、大学、研究機関が連携して新しい技術や事業を生み出す産業拠点の形成を検討します。

⑦ 地域の困りごとを、ビジネスの力で解決する

買い物や移動の不便、高齢者の見守り、子育て支援などの社会課題を解決する新しいビジネスを応援します。人・モノ・場所を有効活用し、企業やNPO、地域団体による課題解決と雇用創出を後押しします。

⑧先端技術の実証・社会実装を支援

ドローン・ロボット・フィジカルAI等の先端技術について、地場企業やスタートアップの実証機会を拡充し、公共課題の解決と新産業の育成を図ります。

政策３　人への投資で、一人ひとりの可能性を開く

学びたい、挑戦したい。その思いを、誰も諦めなくていい福岡へ。

子どもの学びを保障し、若者の挑戦を支え、働く人が何度でも学び直せる環境を整えます。家庭の経済状況や年齢、障がいの有無などによって可能性が閉ざされない福岡を目指します。

① 学校現場を支える人員配置を充実

教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう、学校現場の人員配置を充実。少人数でのきめ細かな指導や、心のケア、家庭の問題の相談を担う専門職員の配置を進めます。

② 不登校でも学び続けられる福岡へ

校内の学習支援教室、オンライン学習、民間の学びの場などとの連携を強化し、一人ひとりに合った学び方を選べるようにします。

③ 専門人材の育成と学び直しを支援

大学、企業、行政が連携して AI、半導体、金融、医療などの人材を育てます。社会人や中小企業で働く人の学び直しも支援します。

④若者の挑戦と国際交流を支える

大学生などのインターンシップや海外交流の機会を広げます。大学、企業、行政が連携し、若者が多様な仕事や文化に触れ、自分の可能性を広げられる環境を整えます。

重点戦略Ⅱ　ともにつくる、住み続けられる福岡

― 一人ひとりの暮らしに、安心とゆとりを。―

住宅費や生活費の上昇、子育てや介護への不安に向き合います。若者、子育て世帯、一人暮らしの人、高齢者。それぞれの暮らし方に応じた支援を充実させ、誰もが安心して住み続けられる福岡をつくります。

政策４　住み続けられる住宅政策を実現する

福岡で働く人が、福岡に住み続けられるまちへ。

住宅価格や家賃の上昇に対応し、若者、子育て世帯、高齢者などの負担を軽減します。空き家、公営住宅、市の土地なども活用し、住まいの選択肢を広げます。

① 住宅費の負担を軽減

子育て世帯、若者、高齢者などに対する住宅取得や家賃への支援制度を検討します。所得や世帯構成に応じた支援を進め、福岡で働き、暮らし続けられる環境を整えます。

② 空き家を住まいとして活用

空き家の改修や流通を支援し、若者、子育て世帯、高齢者などが利用できる住宅として活用します。住宅の所有者と入居希望者をつなぐ仕組みも充実させます。

③ 公営住宅や市の土地を有効活用

市営住宅、公有地、民間住宅などを活用し、住まいの確保に困る人への支援を強化します。既存住宅の改修や建て替えに際しては、将来の人口動向や地域の需要を踏まえて検討します。

④ 断熱リフォームを支援

窓の断熱性能を高める改修などへの支援を検討し、夏は涼しく冬は暖かい住環境と光熱費負担の軽減を進めます。

⑤高齢になっても暮らしやすい住宅へ

手すりの設置や段差の解消など、将来の介護も見据えた住宅改修を支援し、相談窓口を分かりやすくします。

政策５　子育ての負担を徹底的に軽減する

子育てするなら、福岡。

子どもを産み育てたいという希望が、経済的な理由で妨げられない福岡へ。保育、教育、給食、住宅などの負担を見直し、第１子からの支援と多子世帯への重点支援を進めます。

① 第１子からの保育料無償化を進める

子育て世帯の経済的負担を軽減するため、第１子からの保育料無償化を検討します。あわせて、保育所の給食にかかる副食費の無償化に取り組むとともに、保育ニーズを踏まえた受け入れ体制の充実と入所保留児童対策を進めます。

② 多子世帯への支援を充実させる

子どもの人数が増えることで家計の負担が大きくなる多子世帯に対し、保育、教育、給食、住宅などの費用負担を総合的に見直し、支援を充実させます。

③ 子育てと住宅を一体で支援

子どもの成長や家族構成の変化に応じた住宅取得、住み替え、家賃負担などへの支援を強化します。

④ 保育の質と利用しやすさを高める

保育士を確保し、入所保留児童ゼロを目指します。休日保育、病児・病後児保育、一時保育などを拡充します。

⑤ 教育費の負担を軽減

修学旅行費、教材費、制服代などの負担軽減策を検討し、家庭の経済状況によって学びの機会に差が生じないよう取り組みます。

⑥ 夏休み期間中の給食提供を検討

長期休業中も子どもたちが安心して食事を取れるよう、学校給食の提供方法や課題を検討します。

⑦ 放課後の居場所と学びを充実

放課後児童クラブや学校施設を活用した体験活動などを整理し、安全な居場所と多様な学びを確保します。

⑧ 子育て家庭の孤立を防ぐ

妊娠期から出産後までの相談支援や産後ケアを充実させ、家庭への訪問支援も強化します。

⑨ 若者の結婚・出産への経済的不安を減らす

仕事や所得、住宅、保育、教育などを一体的に捉え、希望する人が安心して結婚・出産・子育てできる環境を整えます。

政策６　一人でも安心して暮らせる福岡へ

一人暮らしでも、安心とつながりのあるまち。

若者から働く世代、高齢者まで、一人暮らしの人が安心して生活できる福岡を目指します。住まいや健康、経済的な不安、孤独・孤立など、一人暮らしならではの課題に向き合い、困ったときに必要な支援につながれる環境を整えます。

① 一人暮らしへの支援を利用しやすく

住宅、健康、生活相談、孤独・孤立対策など、各部署に分かれた制度を分かりやすく整理し、必要な支援につながれる仕組みを整えます。

② 一人暮らしの人の住まいを守る

高齢者や収入が不安定な人の住まい探しや住み替えを支援します。保証人や緊急連絡先の確保が難しい人も安心して住み続けられる環境を整えます。

③ 孤独・孤立を防ぎ、人とのつながりを支える

地域、民間企業、NPO などと連携し、気軽に相談し交流できる機会や身近な居場所づくりを広げます。

④ 病気や緊急時にも安心できる仕組みをつくる

急な病気やけが、災害時の連絡、安否確認、入院時の生活上の不安に対応できるよう、関係機関の連携を強化します。

⑤ 将来の介護や老後の不安に早くから備える

一人暮らしの高齢者が介護サービスや成年後見制度について早い段階から相談できる環境を整えます。

⑥ 高齢者などの買い物や外出を支える

買い物や通院など日常の外出が難しい高齢者を支えるため、社会福祉協議会や民間企業、NPO などと連携しながら、移動販売や送迎に取り組む事業者への車両購入支援などを検討し、買い物支援や送迎、見守りサービスを充実させます。

政策７　福祉・介護・医療の安心を支える

支えが必要になっても、自分らしく暮らせる福岡へ。

高齢になっても、障がいや病気があっても、必要な支援を受けながら安心して暮らせる福岡を目指します。本人だけでなく、家族や地域で支える人も安心できる環境を整えます。

① 介護施設を計画的に整備

2035 年までの介護需要を推計し、特別養護老人ホームなどの施設整備を進めます。

② 介護人材の確保と働きやすい環境づくり

介護職員の住宅支援、資格取得支援、デジタル技術や介護ロボットの導入を組み合わせ、人材の定着を進めます。

③ 自宅での介護と、仕事との両立を支える

訪問介護や短期間の施設利用などを充実させます。企業への出張相談や家族が休息できる支援を広げます。

④ 地域包括支援センターの機能を強化

地域の需要に応じた増設や職員の増員を進め、介護予防からサービス利用まで切れ目なく支援します。

⑤ 認知症になっても安心して暮らせる福岡へ

認知症の人や家族への相談を充実させ、若年性認知症の人も含めた社会参加や就労を支援します。

⑥ 障がいのある人の暮らしと社会参加を支える

相談支援、日常生活の支援、就労や社会参加の機会を充実させ、親が亡くなった後も安心して暮らせる体制を強化します。

⑦ 健康寿命を延ばし、必要な医療につなげる

健康診断や運動、食生活の改善を支援し、医療機関と介護事業者の連携を強化します。

⑧ 生活困窮者への支援を充実させる

失業や病気、収入減少によって生活が困難になった人に、早期相談、就労支援、一時的な生活支援などを組み合わせます。

⑨ 民生委員・児童委員の活動を支える

民生委員・児童委員の活動負担を軽減し、欠員の解消に向けて推薦方法や支援のあり方、情報共有の仕組みを見直します。

重点戦略Ⅲ　ともにつくる、次世代の福岡

― 2040 年、その先を見据えた都市づくり。―

交通混雑の解消、地域のにぎわい、博多湾の将来像、食料供給、防災、環境。人口減少社会も見据え、持続可能で魅力ある都市づくりを進めます。

政策８　成熟都市にふさわしい交通政策へ

誰もが移動しやすい福岡へ。

地下鉄、鉄道、バス、予約に応じて運行する交通サービスなどを組み合わせ、都心部から住宅地、郊外まで誰もが移動しやすい福岡をつくります。

① 日常の移動に困らない福岡へ

公共交通の利用が難しい地域では、行政が主体となって地域住民や交通事業者と協力し、生活交通を確保します。予約に応じて運行するオンデマンド交通の運行エリアを拡大し、必要な地域への導入を進めます。

② 地下鉄・鉄道・バスをもっと便利につなぐ

駅やバス停での乗り継ぎを改善し、運行情報の連携を進め、目的地までスムーズに移動できる交通網をつくります。

③ 全市的な渋滞対策と公共交通への利用転換を進める

市内全域の渋滞箇所を徹底的に洗い出し、交差点の改良や信号制御の見直しなど、それぞれの原因に応じた具体的な緩和策を検討・実施します。同時に、都心部の駐車場政策の見直しや公共交通への利用転換を促し、自動車への過度な依存を減らすことで、渋滞の緩和と移動時間の短縮を目指します。

④福岡空港をもっと便利に

空港機能の強化や近隣空港との連携を進め、九州・アジアの玄関口としての利便性を高めます。

⑤ 新たな交通基盤の整備に取り組む

地下鉄延伸や都市高速・幹線道路の整備を総合的に検討します。都心部では、新しい技術を活用した移動手段の導入を進め、博多駅、ウォーターフロント、天神などの主要拠点を便利につなぐ交通ネットワークの実現を目指します。

⑥自動運転を活用した新しい交通サービスを実現する

運転手不足に対応するため、国の特区制度なども活用し、自動運転バスなどの実証と実用化を進めます。

政策９　７区それぞれの個性を活かした地域づくり

地域の魅力を活かし、歩いて楽しい福岡へ。

7 区それぞれの歴史、文化、商業、自然、地域コミュニティを活かし、暮らしやすさとにぎわいを両立させます。

① 地域の個性を活かしたまちづくり

建物の用途や高さ、駐車場の設置などに関するルールを地域の実情に応じて検証し、地域の個性が光るまちづくりを進めます。

②市街化調整区域の新たな可能性を引き出す

市街化調整区域について、自然環境や農地の保全との調和を図りながら、地域の実情に応じた土地利用規制の見直しを進めます。

③ 自治会・コミュニティ活動を支援

補助制度や情報共有を改善し、自治会・町内会や自治協議会などを支援。担い手の負担軽減にも取り組みます。

④ 歩いて楽しめるにぎわい空間をつくる

7 区それぞれの商店街や地域の道路などで歩行者天国や道路を活用したイベントを推進。地域の提案を支えるだけでなく、市も積極的に働きかけます。

⑤多様性を大事にした地域づくり

外国人住民・観光客向けの生活案内や地域のルールの周知を充実させ、言葉や文化の違いによる行き違いを減らします。

⑥ 交通マナーの向上

自転車や自動車の交通ルールを周知し、歩行者を含め誰もが安全に移動できる環境を整えます。

⑦ 交通安全と防犯対策を強化

通学路や生活道路の安全対策、防犯灯や防犯カメラの設置支援、特殊詐欺への対策などを進めます。

⑧公園愛護・地域清掃活動を支援

地域住民による公園管理や清掃活動を支え、地域の環境とコミュニティを守ります。

政策 10　文化芸術の力で、心豊かな福岡をつくる

文化を楽しみ、芸術を育て、創造する喜びがあふれるまちへ。

福岡には、地域に受け継がれてきた歴史や伝統文化、芸術と、新しい文化を生み出す力があります。誰もが文化芸術に親しみ、創造する喜びを感じられる環境を整えます。文化を担う人材や活動を支え、地域の個性を活かしたまちづくりを進めることで、心豊かな暮らしと新たなにぎわいを生み出します。

① 誰もが文化芸術に親しめる環境をつくる

公民館、学校、公園、商店街など身近な場所で、音楽、美術、演劇などを楽しめる機会を広げます。

② 子どもたちの文化芸術体験を充実

学校や地域で、プロの芸術家による演奏や演劇、美術などに触れる機会を増やします。鑑賞するだけでなく、自ら創作や表現に挑戦できる活動を支え、子どもたちの感性と創造力を育みます。

③ 文化芸術を担う人材と活動を支援

若手芸術家や地域の文化団体の活動を支え、発表の場や活動場所の確保を進めます。大学や企業などとの連携を通じて、文化芸術に携わる人が福岡で活動を続けられる環境を整えます。

④ 歴史と伝統文化を次世代へつなぐ

博多祇園山笠や博多どんたくをはじめ、地域に受け継がれてきた祭り、伝統芸能、工芸、歴史文化の保存と継承を支えます。

⑤ まちなかに文化芸術とにぎわいを生み出す

公園、広場、歩行者空間、公共施設などを活用し、音楽やアート、パフォーマンスを楽しめる機会を広げます。

⑥ 九州・アジアとの文化芸術交流を広げる

九州各地やアジアの都市との文化芸術交流を進め、芸術家や文化団体の相互交流、共同制作、発表機会を充実させます。

⑦ 文化芸術を新しい仕事や産業につなげる

音楽、映像、デザイン、ゲームなどの分野で、文化芸術と地場企業の連携を促し、新たな仕事や雇用の創出につなげます。

政策 11　博多湾と海・緑の魅力を活かす

博多湾を、福岡の次のフロンティアへ。

博多湾は物流や産業を支える基盤であり、市民に潤いをもたらす都市空間です。アイランドシティから博多港、須崎ふ頭、シーサイドももちまでを一体的に捉えます。

①「博多湾グランドデザイン」をつくる

物流、観光、商業、住宅、市民が集う場所などを総合的に捉え、博多湾全体の長期的なまちづくり構想を策定します。

② 須崎ふ頭の将来像を検討

現在の港湾・物流機能を尊重しながら、将来的な機能の見直しや新たな土地利用の可能性を検討します。

③ もっと海辺を市民の日常へ

公園、遊歩道、飲食、イベント、スポーツなど、市民が日常的に海を楽しめる場所を増やします。

④ 誰もが利用しやすい公園を整備

お金をかけずに楽しめる公園、夏でも涼しく過ごせる公園などを充実させます。

⑤ 緑を活かした快適な都市空間をつくる

街路樹や公園の樹木を適切に管理し、日陰やベンチなどの休憩環境を整えます。市民の花と緑の活動も支援します。

政策 12　福岡の食と農漁業を次世代につなぐ

福岡でつくり、福岡で食べる。食の豊かさを未来へ。

農業・漁業は市民の食を支え、地域の自然や文化を守る大切な産業です。担い手不足や生産コストの上昇に対応し、生産者が安心して事業を続けられる環境を整えます。

① 農業・漁業の担い手を育成

新規就業者や若手生産者を支援し、農地・漁場の維持、技術の継承、後継者育成を進めます。

② 農業・漁業の経営力を高める

デジタル技術による生産の効率化や省力化、コスト削減、販路拡大を支援し、所得向上と経営の安定を後押しします。

③ 福岡産を福岡で食べる、農業・漁業をもっと身近に

学校給食での地元食材の活用や、生産者と消費者を直接つなぐ仕組みを広げます。農業・漁業体験や食育を通じて市民が地域の農漁業に触れる機会を増やします。

④ 福岡の食を新たな産業の力にする

飲食店、食品加工業者、生産者、教育機関などの連携を促進し、加工品の開発や国内外への販路拡大を支援します。

政策 13　災害に強く、環境と共生する福岡へ

災害から命を守り、安心して暮らせる都市へ。

避難所の環境改善、地域防災力の強化、水害への対応を進め、環境への負担を減らす取り組みと暮らしや経済の両立を目指します。

① 避難環境を改善

備蓄品や設備を充実させ、女性、子ども、高齢者、障がい者、ペットなどにも配慮した避難所を整えるとともに、在宅避難にも配慮します。福祉避難所の確保や、必要な人が円滑に避難できる仕組みづくりも進めます。

② 地域防災力を強化

地域の防災士の育成や、災害の種類に応じた防災訓練を支援します。一人で避難することが難しい人の個別避難計画づくりを進め、自治会・町内会などと連携して地域の防災力を高めます。

③ 都市インフラの老朽化対策と防災 DX の推進

道路・下水道・橋梁・地下施設等の点検や災害時の被害調査に、ドローン・AI 等の新技術を活用し、安全性の向上と維持管理の効率化を進めます。

④ 水害への対応を強化

大雨や線状降水帯に備え、センサーなどで危険を早期に把握し、避難情報を迅速かつ分かりやすく伝えます。

⑤ エネルギーの有効利用を後押し

電気自動車や家庭・事業所への蓄電池の導入を支援し、エネルギーの効率的な利用と災害時の電力確保を進めます。

⑥ ごみの削減と資源の有効活用を進める

食品ロスやプラスチックごみの削減、食品廃棄物の再資源化を進めます。

重点戦略Ⅳ　ともにつくる、信頼ある市政

― 市民とともに考え、税金を正しく賢く使う。―

市政の主役は市民です。声が政策に届き、税金の使い道と行政の成果が分かる市政をつくります。市民、議会、行政が互いに信頼し、未来をともにつくる仕組みを整えます。

政策 14　市民と市政をともにつくり、税金を正しく賢く使う

市役所を、もっと身近に。市政を、もっと分かりやすく。

行政が一方的に政策を決めるのではなく、多様な市民の意見を取り入れ、政策の立案から評価まで参加できる仕組みをつくります。税金の使い道と成果を公開し、限られた財源を有効に活用します。

① 市民が政策づくりに参加できる仕組みをつくる

無作為抽出などによって幅広い市民が参加する「市民とつくる政策会議（仮称）」を設け、暮らしや地域の課題を話し合い、政策の立案や見直しに反映します。

② 政策の成果を市民の暮らしで測る

事業の件数だけでなく、生活満足度、企業の経営状況、所得、住宅負担などを測り、政策の改善につなげます。

③ 市長が地域に出向く「出前市役所」

市長や市役所が市内各地に出向き、政策を説明し、市民の声や地域課題を直接聞く機会を設けます。

④ 各区からの政策提案を市政に活かす

7 区それぞれの地域課題について、各校区住民から政策提案を受ける仕組みを整え、提案への対応方針を分かりやすく示します。

⑤「福岡市のお金」を分かりやすく公開

予算や決算、事業ごとの費用や成果を、市民が簡単に確認できる形で公開します。

⑥「手続きはスマホで完結」する市役所へ

行政手続きのオンライン化を進め、待ち時間や負担を減らします。スマートフォンなどの操作が苦手な人への支援も充実させます。

⑦ サイバー攻撃から市民の情報と暮らしを守る

AI を悪用したサイバー攻撃などに備え、市の情報システムや水道・交通などの重要な都市機能を守る対策と、被害発生時の復旧体制を強化します。個人情報の保護や職員の訓練に加え、地場企業のセキュリティ対策や市民の詐欺被害防止も支援します。

福岡の未来を、ともにつくる。

福岡の成長は、人口や建物の数だけで測るものではありません。市民の所得が増え、暮らしにゆとりが生まれること。地場企業が成長し、働く人の賃金が上がること。子どもたちが希望を持って学び、若者が福岡で未来を描けること。

一人暮らしでも、子育て中でも、介護が必要になっても、安心して住み続けられること。そして次の世代に、もっと魅力ある福岡を引き継ぐこと。その一つひとつが、福岡の本当の豊かさにつながります。

これからの福岡の成長は、市民一人ひとりの豊かさと企業一社一社の成長から。

あなたとともに、福岡の可能性を最大限に引き出します。

ともにつくる、福岡　いなとみ修二